

事業実績（平成29年度）

事例1 病棟でのポータブル撮影をより安全に効率的に運用するために
起案側：放射線科 関連側：看護部

改善前
 ポータブル撮影時の介助サポートは病棟や看護師や状況によって様々。医アドでも3回ほどこのテーマを関係部署間で話し合い、解決策を看護師に会議で伝えてもらったが、効果は短期間しかなかった。



改善後
 安全・効率的に協働でポータブル撮影を実施する仕組みを構築（1件当たり1分程度＝20～30分/日の時間短縮）ポータブル担当看護師を決めるため、業務の中断がなくなった。



効果 再度見直すことで、スタッフの業務効率UPへつながる。

費用 なし。

事例2,1 1 麻薬内用・外用の調剤に時間を要し、他の調剤・監査ができない
起案側：薬剤部 関連側：薬剤部、各診療科・病棟

改善前
 麻薬処方箋は日勤帯に出されているが、17～18時に麻薬注射薬の交付・返却が集中する。その為、他の調剤・監査ができず夜勤者が夜勤業務に取り掛かる事ができない。結果夜勤補助者の超過勤務増につながってしまう。



改善後
 麻薬注射薬の交付・返却時間帯を緊急時を除き平日8:30～16:30までとした。結果、夜勤帯に交付・返却が集中することはなくなった。



効果 患者の不要な待ち時間軽減。日勤・夜勤の薬剤師の業務軽減、人件費削減に繋がる。

費用 なし。

事例3,1 2 書類の提出に関して、もう少し簡単な手続きに変更できないか
起案側：リハビリテーション部 関連側：医事課

改善前
 書類の提出先が複雑でわかりにくい。また、退院前訪問指導に関してもう少し簡単な手続きで迅速に書類を回してほしい。近距離出張の書類が間に合わないことが多い。



改善後
 手続き完了までに約1週間かかる「近距離旅行届申込用紙」を廃止し「外出簿」の運用を活用する。退院前訪問指導、若松病院での業務や異動申し送り、外出訓練や外出などコメディカル部門でも外出簿運用が可能となり、事務手続きの効率化を図ることができた。



効果 業務効率UP

費用 なし。

事例4 患者にとって診察券を再来受付機に通すメリットがない
起案側：臨床検査・輸血部 関連側：管理課 医事課 看護部 各検査部門

改善前
 再来患者は、来院後すぐ再来受付機に診察券を通して受付済みとならず、各受付での受付順で対応される為、再来受付機を通すメリットがない。また、再来受付機を通さずに直接各診療科へ行く患者の方が受付順が早くなる為、クレームの原因となる。



改善後
 実務者会議で了承されH30,6月～再来受付機を撤去したシステムを運用。患者への周知期間（H30,3月～5月の3ヶ月間張り紙を掲示）



効果 患者の待ち時間が減る。順番が前後したというクレームが減る

費用 システム運用費用

事例5 予約係から外来受診予定日の変更依頼があり、医師業務が中断する。
起案側：医師 関連側：医事課(予約係)、看護部、医師

改善前
 外来受診予定日に変更の依頼があった場合は、患者→予約係→医師へ確認の流れである。医師は業務を中断せざる負えず、また口頭のやり取りで記録が残らず振り返りができない。予約係がカルテに記載を残すまで行ってほしい。



改善後
 医長連絡協議会に下記2案を説明
 ・予約変更の受付時間を限定
 ・テンプレート用紙を記入後、予約係→医師へ25診療科中「このままでよい」9「賛成」4「回答無」9 今後も検討予定である。



効果 医療安全管理の上、リスク回避に繋がる。医師の業務負担が減る。

費用 なし。

事例6 時間外の食事オーダー件数並びに食待ち変更が多く業務に支障をきたす
起案側：栄養部 関連側：医師・看護師・放射線技師・臨床検査技師・管理栄養士

改善前
 ①時間外における食待ち指示のキャンセル変更
 ②時間外における食待ち食への変更
 2点に関する対応が多く、給食担当者（委託会社）が対応に追われている。委託会社より解決策に対する依頼相談がある。



改善後
 時間外の食事オーダー内容の取り決め表を作成。また、変更の度に作り変えていた運用から事前準備している食待ち食の提供運用に切り替えた。時間外の食事オーダー件数が1449件から1357件、時間外食事変更許容件数が126件から101件に減少した



効果 給食担当者の業務負担軽減

費用 なし。

事例7 患者の手の衛生管理について

起案例：リハビリテーション部
関連例：各病棟・医師・看護師など患者に接する全職種

改善前

訓練をする際、患者の手に触れるが、食べ物や便などによる汚染が見受けられる。様々な器具や道具を介して不特定多数の患者に感染が広がる恐れがある



改善後

現状把握のため調査を実施。手洗の回数、ミトンの個数、洗濯回数、手指汚染のある患者の数、その特徴、介助が必要な患者の人数など繁忙な看護業務の中、患者の手指衛生管理は、看護優先度としては下位に位置付けられていたことが分かった。



効果

さまざまな感染事案を減らす事ができ、院内感染拡大後の対応に必要な様々な費用・コストをカットできる。

費用

なし。

事例8 院内紹介による新患患者に
対しての手続きの説明が不足

起案例：内科外来 関連例：事務部

改善前

院内での他科紹介の場合、「新患受付の窓口」での手続きがなされていないケースが多々発生。理由として、過去受診歴がない場合、「新患受付の窓口」で手続きが必要だが、説明が不十分な為、患者が理解できていないから。



改善後

パンフレット(他の診療科をはじめて受診される方へ)を作成し、運用を介した。次回評価予定。



効果

患者の unnecessary 移動が減少し、転倒や事故等のリスクが減る。

費用

パンフレット作成費用

事例9 患者さんの入院手続きについて

起案例：医療情報部 関連例：入院イベントに関係する全ての職種

改善前

患者さんの入院手続きがスムーズに行われていない。



改善後

入院業務を確認・整理した上で、フロー図を作成し、可視化する。他部門の仕事内容が理解でき、俯瞰した観点からコミュニケーションが取れるようになると予想される。次の段階としては、フロー図を基に各部門の問題点を抽出する。



効果

患者がスムーズに入院手続きができる。入院に関わる全ての職種スタッフのストレス・業務量軽減

費用

なし。

事例10 スキャナー原本はカルテと
合冊しなくてはならないが納得されない

起案例：臨床検査・輸血部、生理機能検査科
関連例：関連医師、医療情報部、内科外来

改善前

関連医師より、検査結果の一部をスキャナー報告している検査結果スキャナー原本を検査部に保管するよう依頼有り。スキャナー原本はカルテと合冊しなくてはならないので、断るが納得されない。この件は、特定共同指導にて指摘されている事項なので何とか改善したい。



改善後

まずは、カルテの外來保管期間を3ヶ月→2ヶ月にして、収納に余裕ができれば、合冊の方向で次の方策を考えてはどうかと提案



効果

紛失などのリスクが減る。外來スタッフのカルテ整理などの業務が減少する。

費用

なし。

事例13 職員の接遇向上

起案例：看護部 関連例：全職員

改善前

H28年度 患者満足度調査にて、患者の苦情が増えていることから、すぐにできるスタッフの接遇教育の必要性を感じている。職員全員で取り組む必要がある。



改善後

今年度は問題解決に至らなかったため、次年度検討



効果

患者満足度がUPする

費用

(次年度検討のため)なし。

事例14 ユニフォームポケット0作戦

起案例：看護部 関連例：全職員

改善前

ユニフォームの洗濯する際、ポケットに様々なものが入っており、洗濯場での確認作業の負担増えている。個人情報も含まれている場合もあり、医療安全上の問題もある。



改善後

ポケット0作戦を実施することで看護師の意識が変わった。洗濯しないランドリーボックスを設置し看護師長経由にてメール発信して通告している。



効果

テープやアルコール綿などコスト削減、患者情報の保護、洗濯の方・看護部の仕分け負担削減

費用

なし。